

- ・竹林間伐と粉碎作業で地域貢献
- ・「四日市流域ルネッサンス」バス・ツアー開催 P.1

- ・「映像で魅せる地域の魅力」・・・四日市大学プチ映画祭
- ・国際交流「多文化共生プロジェクト」
- ・モンゴル環境シンポジウム&環境フォーラム開催 P.3

- ・国際協力海外研修（タイ研修）実施
- ・「命のメッセージ展」に参加
- ・四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」 P.2

- ・「3.14…数学文化シンポジウム」開催
- ・「地バト」始動
- ・ボランティア部発足
- ・糸川諒投手「三重スリーアローズ」に入団 P.4

竹林間伐と粉碎作業で地域貢献

2011年1月29日と2月9日に四日大エコ活動（正式名称：四日市大学環境協働活動会議）は、キャンパスの竹林間伐作業を行った。四日市大学のキャンパスは自然林に囲まれており、その約半数が竹林となっている。竹の成長は早く、現在、竹林には竹が密生し、他の自然林内への竹の侵出も目立っている。また、竹林内の遊歩道にも竹が生え、倒木もあり、通過が困難な状況になってきた。この状況を改善するために、四日大エコ活動は一昨年より竹の間伐や、伐採した竹を利用した池造りなどを進めている。

今回の活動は、四日大エコ活動の代表者が地域の環境活動を進める中で実現したもの。活動にご協力いただいたのは桑竹会、桜台連合自治会、四日市環境クラブの方々で日頃、地域で竹間伐に取り組まれている。

チップパーという竹の粉碎機を持ち込んでいただき、竹の切り方などの注意事項も教えていただいた。学生たちは、竹林内の倒木を集め、特に密生した部分を間伐して粉碎した。

チップパーや電動ノコギリなどの動力機械の威力は目覚ましく、これまでの学生と教員による手作業の間伐に比べて、作業効率はかなり上がった。破碎した竹は、環境保護団体と農家の方々に分け、畑の土壌改良などに使用していただく。今後も四日大エコ活動は、地域と連携しながら環境活動を積極的に推進していく。



「四日市流域ルネッサンス」バス・ツアー開催

2011年2月4日に四日市大学研究機構－四日市流域ルネッサンス・プロジェクトでは、湯の山温泉周辺にスポットを当て、この地域を元気にするために日々活躍されている方々を訪問するバス・ツアーを開催した。これまで同プロジェクトでは、本学の学生達が3カ所の「四日市地域まちかど博物館」を取材し、それを映像化してYouTubeに配信したり、「桑名の千羽鶴を広める会」の方々による連鶴の折り方の講習会を開催してきた。いずれの企画にも日本人学生に加え本学留学生も積極的に参加した。

今年度、第三弾となる今回のバス・ツアーでは、湯の山温泉の女将さん達おかみがつくられた「女将の会きらら」をはじめ、湯の山温泉周辺にある「四日市地域まちかど博物館」など9カ所を巡った。自宅に展示されているものから、半店舗の形態のもの、教室を兼ねたものなど、思い思いの空間に、例えば陶芸ひとつとっても芸術的な作品から「手捻り」という手法で作られたものなど、それぞれ個性的な作品を拝見しながら、その想いを聞かせていただいた。古布を使った小物・木工品・山野草など、日本人の持つ和の文化や、温かい人とふれあって、とても清々しい気分が癒された。

参加した学生達は、今回の訪問を通じて、「伝統を継承することの大切さ」、「こういう場や人がいることをもっと知るべきだ」、「こういう活動が地域を元気にする」という想いを強く持ったようだ。

国際協力海外研修（タイ研修）実施

2月17日～24日、国際協力論・タイ研修を実施した。この研修は、青年海外協力隊、NGO(非政府団体)、国際ボランティアなど、日本が行う発展途上国での国際協力活動を学ぶことを目的とし、全学組織である国際交流委員会が所管して実施している。今回は、タイにおける日本の支援のあり方を学ぶため、総合政策学部3名、経済学部1名、計4名の学生が参加した。

研修では、タイ北部チェンライで、教育機会に恵まれないタイ山岳民族の中・高校生を支援する生活寮「暁の家」(代表 中野穂積氏;三重県紀北町出身)の活動内容を知るとともに、山岳民族の方の家にホームステイをさせていただき、コーヒー畑を見学するなど、村の実際の生活を体験することができた。また、「暁の家」の生徒の皆さんとの交流も楽しい思い出となった。研修の最終日には、チェンマイの「ヒーリングファミリー財団」(障害者の創造活動を支援する団体)を訪問した。途上国のために活動をしている団体を訪ね、日本と途上国の関係や国際協力についてじっくり考えることは、参加学生にとって貴重な経験となった。



「生命のメッセージ展」に参加

2011年2月27日鈴鹿市市民会館展示室で、「生命(いのち)のメッセージ展 in みえ～生きた証を生きていく意思に～『愛2011』」が行われた。生命のメッセージ展とは、犯罪・事故・いじめ・医療過誤などの結果、理不尽に生命を奪われた犠牲者が主役のアート展で、会場には「メッセンジャー」と呼ばれる犠牲者の等身大のパネルとともに、写真、家族からのメッセージ、生前履いていた靴などが展示されている。また企画・運営は、三重県内の有志の学生が中心になって行われ、今回の実行委員長である村田明浩さん(総合政策学部4年)は来場された皆さんに、「生命の重み、大切さ感じていただき、自分の生活を改めるだけで、救われる生命がある」と訴えた。「生命のメッセージ展」は2005年から三重県内8箇所で行われ、毎回「愛」をキーワードに生命の大切さを発信している。

四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」

今年は、4年に一度の統一地方選挙の年である。四日市市でも、4月10日に県知事選挙と県議会議員の選挙が、4月24日には市議会議員の選挙が予定されている。しかしながら毎回、選挙というと、若者の投票率が低いことが問題となる。こうした状況を打破しようと、四日市市選挙管理委員会からの働きかけも受けて、本学の学生たちが立ち上がった。メンバーは、経済学部3名、環境情報学部1名、総合政策学部4名の計8名でスタート。総合政策学部の小林慶太郎准教授を顧問とし、昨年12月16日に第1回の会合を開いて以来、4月に向けて会合を重ねてきた。

グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められている。

今後、本学学生をはじめとする若い世代に、投票の呼び掛けをしていくことにしており、チラシやポスター等の啓発用資材を作成。市内の飲食店などへの協力依頼などを予定しているほか、4月3日と17日には、近鉄四日市駅周辺での街頭啓発も予定。既に新聞やミニコミ誌、FM局の取材なども受けており、今後の活躍が注目される。

「映像で魅せる地域の魅力」・・・四日市大学プチ映画祭・・・

2011年3月21日に四日市大学研究機構では、「映像で魅せる地域の魅力」（四日市大学プチ映画祭）を実施した。

第1部では、四日市流域ルネッサンス Moviezoo チームが1年間に渡って取材してきた四日市地域まちかど博物館を学生の視点で紹介、またその際の取材秘話なども語られた。

第2部では、環境情報学部でメディアを学んでいる学生の卒業制作映画の上映会が行われた。青春映画、アニメーションなどが上映され、地元シニアの皆さんには自らの青春時代を懐かしく思いださせる作品が好評だった。

会場では、現在、入手困難な竹鶏たまごの限定販売や、竹鶏たまごを使用し洋菓子店の開発した「にわさんのため息」をお菓みに四日市大学茶道部がお茶を添えて、「和ごころcafé」も1日のみオープンした。その他にもご当地グルメで各種特製弁当や地域の美味しいもの即売会も開催され大変盛況だった。なお、6つの「まちかど博物館」や有機野菜、シュタイナースクールなども展示された。東北地方太平洋沖地震からの復興を祈願して、未来を背負う学生の研究発表会であった。

国際交流「多文化共生プロジェクト」

今日の日本における多文化共生社会について、学生たちが考えるプロジェクトを実施した。プロジェクトには本学の日本人学生、外国人留学生に加え、地域の日本語ボランティアや高校生など、学内外から40名の参加があり、多様な側面から多文化共生について議論した。このプロジェクトには、四日市市の後援も受けた。

活動は年間を通じて行い、「ボート交流会(8月)」「パネルディスカッション(10月)」「グループディスカッション(10月)」「プレゼンテーション(1月)」の4つを実施した。参加者は互いに交流を深めながら、新たな知識や情報を交換し、終了後は「難しかったが面白かった」「また来年もやりたい」など積極的な感想が多く聞かれた。特にグループディスカッションでは、「文化・自然」「ことば」「多文化共生の拠点」などのテーマごとに、熱心な意見交換があった。文化の違いや、日本語のあり方、国籍の異なる者同士の接し方など自分たちに直結する話題が多く、参加者の関心は大変高かった。また、プレゼンテーションでは、グループごとに資料やパワーポイントを準備して報告。会場からは盛大な拍手を受け、高い評価を得た。

モンゴル環境シンポジウム&環境フォーラム開催

草原、青空、相撲力士などで知られるモンゴル国も、現在は社会の急激な変化により、自然環境の劣化や健康被害が懸念されており、特に首都のウランバートルには人口の4割が集中し、生活暖房用の石炭燃焼や火力発電所、また自動車からの排気ガスなどによる大気汚染が深刻な状態となっている。四日市喘息の症状に似た児童らの被害や流産・奇形の発症といった深刻な問題があり、公害源は企業というより市民側にあるようだ。

NPOモンゴルエコフォーラムとFOREST JAPANは笹川平和財団の国会議員交流事業を活用し、R.ジグジッド駐日モンゴル国特命全権大使と若手国会議員らを日本に招待して、2月11日(金)に環境フォーラム・イン・四日市を開催した。このフォーラムでは、モンゴル大使らからモンゴルの環境の話があり、環境先進国である日本は環境保全技術や公害の歴史を紹介し、情報交換などが行われた。

この機会に来日した議員団5名は、2月18日(金)には四日市市の田中市長と三重県を訪問し、ついで2月19日(土)に四日市市環境センターでの環境シンポジウムで環境情報学部の武本行正教授と栗屋かよ子教授の講義を聴講し、その後、意見交換を行った。モンゴルの環境対策は全く不備で、その改善は一刻を争う大問題とのこと。「大気保全や水質浄化、廃棄物処理など課題山積だが、明日のモンゴルの子どもたちのために環境技術で日本が協力できれば良い」と武本教授は話した。

「3.14…数学文化シンポジウム」開催

関孝和数学研究所の「3.14…数学文化シンポジウム」が3月12日、13日の二日間、名城大学の名駅サテライトで開催した。関孝和数学研究所の所員・長田直樹先生（東京女子大学教授）、副所長・松本堯生先生（元広島大学大学院教授）、副所長・小川東（四日市大学環境情報学部教授）が講演をしたほか、名城大学からも鈴木紀明先生（名城大学工学部教授）、川勝博先生（名城大学総合数理教育センター長）の2名が講演をした。講演は数学、数学史、数理教育の3分野にわたり、充実した内容となった。大地震の直後だったため、講演の順序、講演者を変更するなどしたが、参加者の方々の暖かいご声援もあり無事終了することができた。

「地パト」始動

総合政策学部が2010年度に公募した大学活性化企画。これに応募した「地パト」が本格的に動き始めた。「地パト」は地域パトロールの略。地域の絆を高め安全・安心な街を作っていくためにはパトロールが有効だと授業で学んだ2人の学生が中心になって、2週に一度、あさけが丘の住宅地で、ゴミ拾いも兼ねて活動している。地域の方にも少しずつ認知され始め、手応えを感じていると言う。今後の活動の広がり期待したい。

ボランティア部発足

2011年1月26日、仁木舞由子さんと三島彩さん（ともに総合政策学部1年生）が中心となり、ボランティア部が発足した。

早速三重県から、1月29日、30日に四日市ドームで開催される「子育て応援！わくわくフェスタ」での学生ボランティアの依頼があり、6名の学生が参加した。朝9時から夕方6時まで、長時間のボランティアだったが、広い会場をまわってのスタンプラリーのスタンプ押し、餅つきの補助などにあたった。他大学の学生との交流の機会もあり、県内のさまざまな子どもに関する活動を知ることできるなど、学生にとってもよい機会となった。

糸川諒投手「三重スリーアローズ」に入団

独立リーグ「三重スリーアローズ」に糸川 諒投手（経済学部4年）の入団が決まった。本学の現役選手としては、初めてのプロ野球選手誕生。

「夢だった地元の球団に入れてうれしい。まずは、試合に出て結果を出し、これまで支えてもらった人たちやファンみなさんの期待に応えたい」と思いを強く語った。また、硬式野球部の木下隆司監督は「ピッチャーとして、また主将としてもチームを引っ張ってきてくれた。糸川投手は伸びしろもあり、これからが楽しみ。」と熱いエールを送った。

糸川選手は、松阪市出身で久居農林高校から本大学に進学、2年生の春季リーグでは、最優秀投手賞を受賞している。2010年度は県学生野球リーグの15試合に登板し、7勝をあげた。武器は直球と縦のカーブ。

今後の糸川選手の活躍に期待したい。



これまでのPick Up Topicsはホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

または、四日市大学トップ→大学案内→ピックアップ・トピックスをご覧ください。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200

TEL059-365-6711 FAX059-365-6630